

●三ケ日が開けた4日には定例の事務局会議には理事の皆さん6名の方々が顔を揃えられました。

大村理事長の新年の挨拶では里山の会の発展のために年明け早々の七草摘みを成功させようと力強くよびかけられました。続いて正月に予定されているイベント日程を確認し、特に6日に予定されている七草摘みの前日準備竹のお椀づくりやお箸の材料、それに教育棟の床の拭き掃除などと、七草粥、七草摘みや余興の打合せ、白土山への登山などの催しに熱が入りました。特に七草粥を食するこの取り組みの目的は何なのかとか、伝統的行事とは、といったところに熱が入りました。そして次に木津川希少種調査管理業務の刈り草の運び出しは来週からの事務局会議の午後と翌日のパソコン教室の午後に40ヵ所分を運び出してゆくことで一致しました。まず最初は下流の八幡市のイヌナズナから始めることになりました。そこそこ議題が具体的になったので、お正月をどう過ごしたのかに話題が移り、和やかに2時間近くの初会議を終えました。

●5日は10時からパソコン教室が予定されていて、週間ニュース新年号の発行に小川麻衣さんが奮闘いただきました。そして手配りをさせていただき森島さんや森さんなども集合いただき新年号962号が発行されました。今年の新年号のトップ写真は、里山農園の白土山への周遊通路の階段部分が飾りました。かなり急傾斜で難所となっているところです。ここに同志社大学サッカー部の川田花さんを先頭にボランティアで作り上げていただいた大作品です。

里山農園で七草摘みの会場を里山農園に移動させたのは2015年に教育棟に続いて2016年に観察棟ができたときでした。始めた頃は近鉄鉄橋のグラウンドで、堤防の外の休耕田の田圃や畦道に七草が生えていて簡単にみつけれられました。新田辺駅を利用される方々にはガイド役を山本雅晃理事長にして案内役をお願いして、80人の規模で行って来ました。毎年毎年同じ場所で開催すると七草が少なくなっていて、見つけられなくなりました。天気にも左右されるので雨天対策として大型テントを用意して、食卓用の机やイスなど参加者人数分の用意と撤去などは大変でした。

こうした事前準備が大変だったので農園の会場を移しての開催になって、会場設営問題は解消しましたが、7年目になってくると、毎年大量に摘み取ってしまうと以前のように生育が確認できなくなってきました。今回は里山の会の植物関係の皆さんは、大苦心をしていただきました。このままでは自然の中で生育しているものでは開催が困難となって来ました。

●6日朝から初顔合わせの七草摘みと七草粥を楽しみました。ご参加いただいたのは大人32人と子どもたち9名の41名でした。約半数の方がリピーターの皆さんで、ここにこの日来てみると心が落ち着きますとおっしゃっていました。ある4歳の子どもさんは七草を食した後、白土山への周遊道路を軽い身のこなし方で急斜面の階段を一番で登り切っていました。この日の参加者のうち最高齢者もドッコイショと自らを

激励して初のぼりを達成されました。この日の楽しみの余興では初笑いを誘ってくれたのが久しぶりの出演された腹話術の有田さんの話術、それに金田さんの皿回しが人気でした。参加された皆さんが軽妙な動きに加わって楽しい笑いの声が山に響きました。特に風の影響もあって皿回し



への挑戦では苦勞をしました。感想文では予想以上に楽しかったとあって、準備のご苦勞していただいた方々の努力が実を結んだようでした。これだけもてなしがあって、自然の恵みを感じていただけて良かったと思います。

前日の準備には篠原さんのご友人でタイの人がお椀づくりやお箸づくりに一生懸命されていたと報告を受けました。

近頃身近に外国の方がたくさん見かけられます。日本の伝統的な文化にも接したいと期待されているようですので、こういった人々に七草摘みや七草粥の

イベントに参加を呼び掛けて、国際交流への協力をしてはとか、もっと古代衣装をそろえて来年への充実への課題が事務局会議で出されました。



●お寄せいただいた七草摘みの感想文を紹介させていただきます。大変楽しませていただきありがとうございました。

◎竹の食器、お箸はとても感激し、しかも持ち帰りに焼印まで！とても良い思い出で嬉しいです！ありがとうございます。

◎今日は貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。七草採りという、山草博士がいないと絶対にできない経験や、竹の食器でいただくおいしいお粥🍵いつものスーパーで購入する七草よりもずっとおいしかったです。😊

◎山登りも、子供たちがとても楽しんでいて「もう一回登りたい！」と。大冒険でした！また夏に魚取りに参加させていただきます。

◎今日の感想 七草の紹介とか、マジックとかあったけど、皿回しが楽しかった。

◎はじめての参加で、全く何もわからない状態でしたが、皆さん優しくしてくださりありがとうございました。

◎七草が自然に生えている様子も見られて良かったです。刻むための歌や衣装も知れて勉強になりました。また参加したいです。

◎七草を初めて摘んだのが楽しかったです。お粥がとてもおいしかったです。洞穴探検の山道で、みんなで転んだのが面白かったです。初めて体験することばかりで、子供が元気に挑戦できる環境に感謝です。ありがとうございました。

◎昨日は親子とも大変お世話になり誠に有り難うございました🙏七草粥は聞いたことはありましたが実際七草を摘んだり七草粥を食べたりするのは初めてで恥ずかしながらもそもそも七草がどれにあたるのか一つも知らなかったのでも🙏親子で勉強実食までさせて頂けてとても感動感激でした

！野菜があまり食べれない子どもがおかわりまでしてバクバクお粥を頂いて竹の器 お箸も感激感動ビックリとても美味しかったです！自作のロゼット植物本まで頂けて七草の覚え方まで教え

てくださった先生がいてお陰様で七草の名前は覚えられました。里山がとても楽しかったようで子どもが帰りがたがらず帰り号泣されて帰宅しても泣いてましたがそれだけ子どもにとって自然のなかも居心地よく皆々様のお陰様でほんとに楽しく過ごさせて頂いて本当に有り難うございました🙏たくさんのご準備本当に有り難うございました🙏

●小川芳也さんの松江通信 No. 15

先々週は斐伊川上流部の流速、先週は木津川上流部の流速を求めましたが、勾配が異なるだけで流速が大きく変化することは理解してもらえたと思います。現実には、場所によって川幅や勾配は異なりますし蛇行もします。川底・河岸の構成材料は大きな石から細かな土砂や植生や樹木などで流れ難さ（摩擦＝粗度係数）が異なります。また、床止め（川底が掘れる（洗堀）のを防いで河道の勾配を安定させる構造物：落差工や帯工）などの人工的な構造物が設置されていたりして複雑であるため、流速の大きい（速い）小さい（遅い）がそれぞれの場所によって生じます。そのため、洪水時の水面高（水位）などを検討する際は、検討区間の特徴を反映させた値を使用する必要がありますので検討区間を分割した小区間ごとに求めたりします。今回求めた平均的な流速は粗すぎますが木津川と斐伊川の上流部では「上流部」という言葉は同じでも様相が異なることを把握してもらうには支障が無いと判断しました。この続きは次回に…

●太田敏之さんの小笠原旅行日記 ～1日目 2022年11月26日 土曜日～（全6日間）

朝7時前の急行で新田辺から京都駅に行き、7時半前の新幹線に飛び乗りました。東京の品川で山手線に乗り換えて浜松町駅で降り、徒歩で竹芝桟橋に向かいました。おがさわら丸は11時の出航ですが、乗船は10時半から始まります。乗船してしまうと、後は24時間の船旅です。東京湾を出てしまうとテレビもBSだけとなり、インターネットも使えなくなります。食事は船内レストランや展望ラウンジで食べられます。自動販売機でもいろいろな食べ物が販売されていて、それらを利用する人もいます。昼食はカツカレー、夕食はビールと小鉢と唐揚げ定食を食べました。お風呂はありませんが、シャワーは24時間使用可能です。

船では船室が6クラスに分かれた等級のうち、私は下から3つ目の2等特別寝台というクラスで、10人部屋ですがカーテンを閉めるとほぼ個室状態です。テレビが付いておりイヤホンで楽しめますが、消灯時間になると外海で唯一映っていたNHK BSも映らなくなります。